

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：大山崎町

プロジェクト名	おおやまぎ魅力増進計画プロジェクト		実施期間	平成27年度	テーマ	地方創生	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本町は、京都府内で最も面積が狭い市町村であるが、山崎合戦で有名な天王山と桂川・宇治川・木津川の三川合流により誕生する淀川に挟まれた自然豊かな土地であり、中世の時代にはエゴマ油の生産、販売により長く自治都市として栄えた歴史がある魅力あふれた町である。 阪急電鉄、JR西日本が町内を通っており、交通の要所である一方、大阪市内、京都市内への通勤にも時間を要しないため、ベッドタウンとなっている傾向がある。住んでよかったを実感してもらうために、本町のさらなる魅力の向上は課題である。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>本町では、現在、昨年末に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、本町における人口減少対策及び地域創生の取組みを推進する町の「人口ビジョン」と「地域創生総合戦略」の策定に取り組んでいる。町民、各町内企業、行政等関係機関が連携して、大山崎町の魅力の増進を図り、住民には住みやすさ、町内企業に勤務をしている人には、働きやすさ、また、その魅力により、観光で来られる方の増加を図ることにより、地方創生への礎を築く。</p>							
	総事業費（千円）	18,612	本年度事業費（千円）	18,612	交付金額（千円）	3,257		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村 実施事業	「まちづくり会議」準備事業	交付対象事業	「まちづくり会議」発足に向け、各種団体等との懇談を実施		まちづくり懇談会の実施：9回、小・中学生との懇談会の実施			
	町広報誌発行事業	交付対象事業	町民に、町に関する各種情報を届け、町の魅力を再確認してもらうとともに、町政への理解を求める。		毎月1回、年12回発行（各6,750部）			
	町ホームページ運営事業	交付対象事業	町内外に、町政や町の観光地などの情報を発信する。		年間約29万アクセス（トップページ）			
	「天王山」PR事業	交付対象事業	町のシンボルで、ここ一番の勝負の代名詞となっている「天王山」にちなみ、勝負の聖地として町をPRする。		「いざ天王山」エコバッグ1,000、スポーツタオル1,300を作成			
	歴史資料館企画展開催事業	交付対象事業	第23回企画展「河陽離宮と水無瀬離宮」を開催（10月24日～11月29日）		開催期間中の入館者数実績：1,772名			
	史跡大山崎瓦窯跡整備事業	交付対象事業	平成18年度及び平成22年度、平成26年度に公有化した史跡地の保全と活用を目的とした史跡の整備。		不用な土砂除去を実施した。地形測量を行い、基本計画の策定、地盤造成工事に伴う実施設計を行った。			
	総合計画策定業務委託	交付対象事業	大山崎町第4次総合計画の策定		「大山崎町第4次総合計画」の策定、冊子体の発行。			
	戸籍窓口支援システム導入事業	交付対象事業	タブレット端末を使用して戸籍届出書の受付項目を様々なパターンに合わせてチェック可能とし、住民の待ち時間の軽減、誤受理の危険性を軽減。		タブレット端末1台を設置。			
	地方創生先行型交付金対象事業	関連事業	町歴史資料館エントランス写真及び地図のリニューアル。外国人用観光マップ及びまちあるきマップの増刷。		町歴史資料館エントランス看板のリニューアル。観光マップ1万部、外国人向けマップ2万部増刷。			
住民 協働 事業	ふるさとガイドの会支援事業	関連事業	活動に対して毎年度補助金を支出するほか、社会教育関係団体交流会を開催し、団体間の横の連携を支援。		平成27年度補助実績18万円。年間ガイド実績は近年約2,000件（約10,000人）前後で推移。			
	スポーツ振興事業	関連事業	体育協会、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等と連携、協調してスポーツ振興を推進。		町体育館の延べ年間利用者数約5万5千人。			
住民が 取り組む 事業	地域活性化事業	交付対象事業	地域活性化に取り組む町内の団体等へ補助金を交付		地域団体の主催で平成27年度11月3日に「天王山ゆひまつり」を開催			
成果	成果指標の目標数値	本町観光入込客数：前年実績以上		成果指標の実績値	482,827人（平成27年12月31日時点）			

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：大山崎町

果 指 標 ①	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	増加要因は複数考えられるが、町の魅力発信の一定の成果と捉えている。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ②	成果指標の目標数値	歴史資料館入館者数：前年度実績以上		成果指標の実績値	27年度入館者数9,242名(平成28年3月31日時点)	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	年間通しての団体客の数は微減であったが、企画展時の講演会参加者が増加するなど一部増加はみられた。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	もともと平成26年度が大きく増加しており、その結果平成27年度は微減となった。	(時期)	
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果 を記載すること	<p>「天王山」を中心として各方面へ展開した広報関連事業の一定の成果により、本町の観光入込客数が増加した。歴史資料館企画展では、地元に関連する国宝・重要文化財を展示することで、その保護・啓発に努めることができた。本来地元にある国宝を一時的ながら里帰りさせることができた。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>					
本プロジェクトに 対する自己評価	関連事業との連携効果	本町における最上位計画である「大山崎町第4次総合計画」が策定され、町全体としての基本的な方向が明らかとなった。				
	府と市町村等との連携に資する成果	広域での観光行事を実施し、観光客の誘致に取り組んだ結果、一定の成果を得られている。（京都・西の観光推進協議会などに参画）				
	住民の自治意識を高める成果	町民自らが地域活性化に取り組むことにより、大山崎町の魅力向上及びにぎわいの創出に寄与することで、住民の自治意識の醸成が図られた。また、天王山を中心とした町のPRを促進することで、わが町への愛着を醸成することができた。				
	リーディング・モデル成果	「天王山」を前面に出し、「勝負の聖地」という斬新な切り口で町をPRし、一定の周知を図ることができた。また、歴史資料館企画展では、近隣自治体の埋蔵文化財遺物を展示で活用する視点を取り上げたことにより、対岸の淀川左岸との交流を視点として提示できた。				
	広域的波及成果	広域での観光行事を実施し、観光客の誘致に取り組んだ結果、一定の成果を得られている。（京都・西の観光推進協議会などに参画） 京都府、大阪府、兵庫県の西国街道沿いの博物館施設と連携する歴史街道推進協議会西国街道ワーキンググループにおいて、積極的に当展をPRすることができた。				
	行財政改革に資する成果	工夫した点として、チラシなどを近隣自治体の博物館施設に重点的に配布し、費用を抑制してPRすることができた。				
	その他の成果					

(記載要領)

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：大山崎町

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは－を記載すること。